

農村舞台活動の新たな発展

阿波農村舞台の会理事長 大和武生

江戸時代から明治時代にかけて農村舞台は単に浄瑠璃などの公演の場として機能しただけではなく、村人のコミュニケーションの場としての役割も果たしたと考えるべきである。

封建時代には民衆が自発的に集合することは、領主や役人によって警戒された。そのため村人は神様を慰労するという名目で、神社に集まって臨時の舞台で浄瑠璃などを演じた。そこでは役人監視の目を逃れて、村人たちも自由に話し合いをすることができた。

農業を中心とした生産的な生活を強制されていた江戸時代には、民衆が自主的に楽しむことは警戒されたため、村人たちは農業生産を左右する神様に喜んでもらい豊作を恵んでもらうためと合理づけて神社で浄瑠璃を演ずるようにした。その公演を準備する必要上、村人たちは神社境内に作られた臨時の舞台に集合してコミュニケーションを図ってきた。

しかし、江戸時代には神社境内に固定した舞台はあまり数多く作られなかった。それは、農業を中心とする村人の生活が定舞台の建設によって浮足立つてはならないという支配者への配慮があったからであり、村民自身にも定舞台を作る経済的余裕がなかった。

明治時代は江戸期よりも管理体制が強化され警察国家としての機能が強まった。芸能などの遊芸は自由に何処でも演じてはならない。定まった場所でないといけない、江戸時代に認められていた自由な公

演活動が一定の舞台に限定されるような条例ができた。

このため神社内に定舞台を建設しなればならなくなった。しかし、現在のように専門の大人さんに建設してもらおう経済的な余裕がなく、村人自身が経験のある村人を指導者として建設した。建材も村の共有林から伐り出したり、個人の余っている材木を寄せ集めて使ったりした。そのため一本の柱が途中から太いと細いのが継ぎ合わせであるような事例を農村舞台でよく目にする。

また、上演においても専門の人形座を有料で呼んですべて任せるとはならず、村の三味線弾きや大夫を動員して協力させた。そこで、その人たちは日ごろの練習成果を発揮した。村人たちの最大の協力体制は、ふすまカラクリの操作である。大勢の村人が心を合わせて、操作に協力しなければ、カラクリはスムーズに動かない。

こうして、農村舞台はその建設に始まり運営に至るまで村人の自主的な協力によって成り立っていた。そうした活動は、一面では村人たちにとっても、自分たちの自由意思を思う存分に発揮できる解放された場でもあったようだ。

いま私たちは、阿波農村舞台の会として、伝統的な農村舞台とその活動を残し復活させようとしています。それは単なる昔の事柄や活動だけの復活でなく、私たち會員の自主的な協力によって新しい農村舞台活動の新たな発展を意味するものだと考えられます。

地域の魅力を伝えていきたい

阿波農村舞台の会の設立から約八年。この間、農村舞台の保存・活用という活動を通じて、私たちは、地域の魅力というものが、そしてその置かれた状況を改めて知ることができた。

地域の気候や風土、歴史などを背景に、長い年月をかけて形作られてきた、そこに住む人々のものの考え方や感じ方など価値観の体系が「文化」である。祭りや芸能などの年中行事や風俗習慣、信仰、家の建て方や村の景観、食生活、方言、生業などは、その地域が育んできた文化の結晶である。そして、それら全てが地域の魅力を構成する要素となる。農村舞台の人形浄瑠璃公演が輝いているとすれば、それは地域の様々な文化資源やそれらを生み出してきた人々との結びつきの中にあるからである。

今、阿波農村舞台を取り巻く地域の状況は極めて厳しい。過疎・高齢化の波が急速に押し寄せ、存続すら危ぶまれるところも多い。これまで農村舞台の調査を行う中で、わずかな軒で舞台を守っているいくつかの集落に出会い、祭りもできなくなったという声も数多く聞いた。そうした現状を前にして、農村舞台の保存・活用だけを呼びかけることはできない。地域の活性化というものを併せて考えていくことが不可欠である。

幸いにして、農村舞台を残している地域は、舞台以外にも数多くの魅力ある文化資源を有している。前述のように文化は、地域に固有のものであり、一人でも多くの人の協力を得ながら、個性豊かな文化資源を掘り起こし、磨きをかけて発信していくことにより、その土地ならではの大きな魅力を生み出

すことが可能である。それは観光資源にもなり得るし、良好な地域イメージや文化的な物語性と結びつけることで一次産品や加工品の強力な競争力にもなる。ひいては、交流人口や定住人口が増加し、経済面での活性化にもつながっていくことを期待したい。情報通信や交通手段の飛躍的な発達により、地域の独自性が薄れつつある今こそ、そこにしかない個性を大切に育てていく時である。こうした課題は大きな社会問題であり、もとより、ひとつのNPO法人が担いられるものではない。しかしながら、農村舞台を中心とする「地域の文化資源を活用したまちづくり」を提案し、住民や行政、学校、民間企業等が連携していくためのきっかけづくりができれば、阿波農村舞台の会として十分に役割を果たしたことになるのではないかと考えている。また、何よりも、県内各地で地域の豊かな文化が伝えられていくことは、私たち自身の楽しみでもある。

地域の魅力を伝えていきたい……阿波農村舞台の会



公演を終えた犬飼農村舞台保存会のメンバー



小屋掛公演／襖からくりの操作



林崎農村舞台の小屋組



犬飼農村舞台／襖からくりの準備



林崎農村舞台(阿南市)の改修工事